桜の聖母学院新聞

発行所
福島市野田町
七丁目11番1号
桜の聖母学院
高校新聞部

校歌

美しきわがまなびや
山嶽はめぐりて高きその姿
黄金なすそのやすらいに
汝をば育み
黄金なすそのやすらいに
みそらははほほえむ

紙面紹介

2面 ●会津大学キャンパス見学記
●赤ちゃん紹介 鹿目先生
●18歳、選挙へ

3競技で全国高総体（インターハイ）へ！

おめでとう！卓球部（11年連続）ソフトテニス部（2年ぶり）サッカー部（初）

桜の聖母学院の創立から70周年を迎えた今年2016年は、本校の歴史に間違いなく刻まれる年となった。スポーツに取り組む日本中の高校生の目標である、全国高校総合体育大会＝インターハイに、本校史上最多の3競技が出場を決めたのだ。しかもそれらはみな、この学校の部活動として本校教員の指導のもとに練習を積んで実力をつけた、正真正銘の本校育ちの選手たちによる快挙だった。

「私立のスポーツ強豪校」と聞くと、甲子園の常連校などに象徴される、恵まれた設備や他県からの留学生・特待生の多いチームをイメージする人も多いかもしれない。しかし本校は私立ながら、施設が特別に充実しているわけでもなく、生徒たちのほとんどが県内出身。しかも平日は普通に7校時までの授業を受けた後、夕方16時過ぎからの限られた活動時間の中で練習を積んできた。

このような条件下にもかかわらず、11年連続出場の卓球部に加え、2年ぶり2回目となるソフトテニス部、そして初出場を決めたサッカー部の3競技で全国大会への切符を手にしたことは、努力次第で全国大会出場の可能性があることを、身をもって示したと言えよう。

高校女子サッカー東北大会準決勝で勝利し、全国大会初出場を決めた桜の聖母イレブン（6月19日）

県内では無敵の卓球部

かつては東北大会を制したこともある本校卓球部は、もはや県内では敵なし。部員数こそ一時期より減ったものの、少数精鋭のメンバーで臨んだ県大会では、女子シングルスとダブルスの3位までをすべて本校勢が占めるという、圧倒的な強さで制した。しかもシングルスで共に1年生の高橋沙希さん（1年4組）が1位、續橋千穂さん（1年5組）が2位と、先輩たちを上回る快挙。ダブルスでも決勝で星美咲さん（3年6組）苅宿紗英さん（3年1組）の3年生ペアを、高橋さん・續橋さんの1年生ペアが破って優勝するなど、スーパー新入生たちが目覚ましい台頭を見せた。

しかし優勝校のみが全国大会に進める、県大会学校対抗決勝では、現在県内では本校の最大のライバル・喜多方東高校との息詰まる熱戦となった。団体用に組んだエース星さんと1年生高橋さんのペアが、まさかの敗戦。両校2勝同士で臨んだ最終5試合目のシングルスはエース対決となり、最終ゲームまでもつれる展開となったが、ここでキャプテン星さんが踏ん張って劇的な勝利をおさめ、最も欲しかった団体での全国大会出場を勝ち取った。

県大会学校対抗で優勝し、全国大会出場を決めて喜ぶ卓球部（5月28日）

インターハイ全国大会の卓球競技は、岡山県総社市にて8月1～5日に開催され、本校は学校対抗に加え、ダブルスで高橋・續橋ペアと星・苅宿ペアの2組が、シングルスでも高橋さん・續橋さん・星さん・苅宿さんの4名が出場する。期待の1年生が全国の舞台でどこまで通用するか、また最後のインターハイとなる3年生が底力を見せるか、さらには各校のプライドが正面からぶつかる学校対抗と、大いに期待が高まる。

躍進目覚ましいソフトテニス部

2年前に創部以来約50年で、悲願のインターハイ全国大会出場を果たした、ソフトテニス部。その時に出場した3ペアの中の、当時1年生だった但野愛さんと高橋麻綾さん（共に3年6組）が残り、1・2年生にも実力あるペアがそろった今年は、目標を県大会の団体優勝・インターハイ全国大会団体出場に定め、予選に臨んだ。

県北地区大会では、卓球部同様もはやライバル不在で、女子個人戦では下川さくら（1年4組）坂本暁子（2年4組）ペアが1位、但野愛・根本睦（3年4組）ペアが2位、高橋彩寧（1年5組）岡田結愛（3年4組）ペアが3位と、上位を独占。団体でも貫禄の4年連続優勝を果たした。

続く福島県大会では、ここから出場の但木真紀さん（3年4組）と高橋（麻）さんのペアが加わり、最大のライバル田村高校との「二強対決」に注目が集まった。個人戦ベスト4に残ったのは、田村の2ペアと、本校の但木・高橋ペアと下川・坂本ペア。但木・高橋ペアは準決勝で、優勝した田村のペアに敗れたが、下川・坂本ペアは別の田村のペアを破って決勝に進出。但木・高橋ペアを破った田村のペアの前に涙を飲んだが、堂々の準優勝。また順位決定戦で但野・根本ペアが5位となり、6位までが行ける全国大会の切符を勝ち取った。団体戦でも田村高校と全国大会進出をかけて決勝を争ったが、あと一歩のところでまたしても田村を超えることができず、残念ながら準優勝で、団体での全国初出場は来年以降に持ち越しとなった。

全国大会出場のソフトテニス部・前列左から高橋麻さん、下川さん、根本さん、後列左から但木さん、坂本さん、但野さん

インターハイ全国大会のソフトテニス競技は、岡山県備前市にて7月29～31日に開催され、下川・坂本ペア、但木・高橋ペア、但野・根本ペアの3組が個人戦に出場する。初戦敗退に終わった3年前を上回る成績を期待したい。

2年前の雪辱を果たしたサッカー部

創部10年にして初の全国切符をつかんだサッカー部。実は2年前にも県大会で優勝し、上位2校が全国大会に出場できる東北大会では準決勝まで進んだものの、宮城の名門・常盤木学園の前に敗れ、涙を飲んだ。1年生に新戦力が加入した今年は、まず県大会決勝で昨年苦杯をなめた富岡・ふたば未来高校の連合チームを、4―1で圧倒し、2年ぶりの県大会制覇。そして東北大会では、神のご加護か常盤木学園とは決勝まで当たらないブロックに入ることになり、期待が高まった。

東北大会初戦の山形代表酒田南高校戦では、ゴールラッシュとまではいかなかったが手堅い守備で2―0の快勝。そしてこの試合に勝てば全国大会が決まる準決勝は、青森代表の千葉学園との対戦となった。会場が福島からも近い宮城県利府町の「ひとめぼれスタジアム宮城」しかも日曜日ということで、サッカー部員の保護者をはじめ在校生や卒業生、教職員などが多数応援に駆け付けた。

試合は前半から本校が一挙4点をあげるという、一方的展開。後半は相手の反撃に遭い1点を返されたが、圧倒的に上回る数のシュートを放って終始ゲームを支配し、4―1で勝利をおさめ、悲願のインターハイ全国大会への初出場を決めた。翌日の決勝では、王者常盤木学園の前に敗れはしたものの、堂々の東北大会準優勝に輝いた。インターハイ全国大会のサッカー競技は、広島県内の5市にまたがって、7月29日～8月2日にわたり開催される。初の全国の舞台で、貴重な経験を積んできてほしい。

この3つの部の他にも、バスケットボール部が県大会ベスト4、新体操部が県大会団体3位、陸上競技部の小針知佳さん（3年6組）が円盤投で東北大会出場、昨年からできた自転車部の冨士川怜奈さん（2年4組）が東北大会で5位。かつてどの部も県大会出場が最大の目標だった時代とは、生徒数は減ったにも変わらず、隔世の感がある。

明るさ素直さ誠実さを！

川田紀美子・新校長先生に聞く

この4月、本校の管理職の先生方に大きな異動があった。最大の変化は、シスター伊達幸子・中学高校校長先生に代わって、幼稚園小学校の校長であるシスター川田紀美子先生が、中学高校の校長を兼務する形で着任されたことだ。幼稚園から高校まで4つの部門にまたがる校長先生となられた、川田新校長先生へのインタビューを紹介する。

川田紀美子・新校長先生と共に

Q：まず、4つの部門の校長に就任されたご心境を、お聞かせください。

A：ひとこと「重責」。しかし多くの人から声をかけられ、町なかでも応援されることもあって、ありがたいです。

Q：ご出身はどちらですか？

A：郡山市出身ですが、父と自分の転勤などが続いて、福島市は通算で27か所目です。

Q：学生時代のことを聞かせてください。

A：父が選んでくれた、桜の聖母学院に入りました。学校の運動場にあった聖マルグリット・ブールジョワの像に魅かれて、いつか桜の聖母学院の教師になりたいと思いました。天真爛漫で、窓から身を乗り出して話したり、廊下を走ったりと、担任の先生を悩ませる生徒でした。しかし1年生の2学期から改心しました。

Q：最初に母校の桜の聖母学院の教員となられたのはいつですか？

A：修道会入会前に9年間、そして平成元（1989）年度から9年間、幼稚園・小学校部門の教頭・校長職を務め、平成22（2010）年度に幼小部に再度戻りました。

Q：本校以外でお務めになった学校は？

A：姉妹校である北九州の明治学園や、他の修道会が経営する川崎市のカリタス学園、郡山市のザベリオ学園などで働いてきました。44年間は学校で働いています。

Q：キリスト教のよいところは？

A：神の御子イエス・キリストご自身が、人としての生き方を示し、言葉をもって教えてくださったことです。そしていつも私たちと共にいると約束してくださいました。

Q：先生にとって神様とはどんな存在ですか？

A：絶対的な信頼をもてる方です。「この方のためなら何でもやろう」と思います。

Q：先生の夢は？

A：桜の聖母学院の存続です。

Q：私たち本校の高校生に望むことは？

A：明るさ、素直さ、誠実さを大切にしてほしいです。校風、学校文化を育てる自覚を持ち、それぞれの目標に向かって進んでほしいです。

年齢を感じさせないてきぱきとした受け答えや、インタビューした私たち桜の聖母学院小学校時代の教え子の名前や顔を、正確に覚えておられる記憶力には、改めて脱帽した。どうかお体に気を付けて、重責を果たしていただきたい。

なお校長先生以外に、2年ぶりに復活した副校長の職務に、教頭であった落合茂幸先生が着任。また教頭が再び二人となり、中学校を担当する教頭に高橋泰史先生が、高等学校を担当する教頭に長谷川和也先生が着任された。ぜひ本校の充実・発展のために、力を尽くしていただきたい。

副校長 落合茂幸先生

教頭 長谷川和也先生

教頭 高橋泰史先生

お疲れ様でした！伊達幸子・前校長先生

震災の年の7月に校長に就任し、5年近くにわたり校長をお務めになったシスター伊達幸子先生に、新聞部では福島を去られる前にインタビューした。

伊達幸子・前校長先生を囲んで

Q：4年9か月を振り返っていかがですか？

A：まず、多くの人に支えてもらったことを有り難く思います。私が前任者の遠藤静子校長先生の後をうけて校長になった時、まだ震災の混乱が続いていました。校長として組織をまとめることは毎日がチャレンジでした。立場上、私が最終的に判断しなければならないことがあり、辛いと感じた決断もありました。

2014年2月の大雪で数日間も休校にした時には、どうやって授業を挽回するか悩みました。桜華祭などのイベントの前には、テルテル坊主を作って「どうか一日だけでも晴れてください」と祈りました。

Q：一番の思い出は？

A：本校卒業生の加藤和さんが、2012年のロンドンオリンピックに出場したこと、またチャリティーコンサートとしてヴァイオリニストの千住真理子さんや、ピアニストの西川悟平さんなどが来校してくださったことです。そのきっかけを卒業生がつくってくれるなど、思いがけないことがたくさんあり、良い思い出となりました。

Q：九州の姉妹校に転勤後にやってみたいことは？

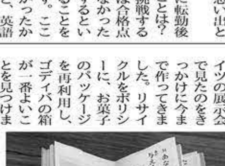
A：英検準一級に挑戦することです。前回は合格点にあと1点足りなかったのですが、合格するというよりは受験することを目的にしています。ここで点数がとれなかったから次は頑張ろうと、英語を勉強する刺激を得られるので。次の受験までの限られた時間に努力するのも、自分にとっていいことです。

また、次に行く修道院は福島よりも小さめなので、週に何回かはお料理をしてみたいと思います。「おいしい」と言われるとうれしくなります。

あと、趣味のミニチュア聖書づくりも極めてみたいです。ドイツの展示会で見たのをきっかけに今まで作ってきました。リサイクルをポリシーに、お菓子のパッケージを再利用し、ゴディバの箱が一番よいことを見つけました（笑）。

Q：桜の聖母生にひと言を。

A：「私はこれ」という道を貫いて、それぞれの生き方で、人と比べたりしないで自分らしく生きてください。神様から与えられたプレゼントに気付き、地道に磨いていってください。そうすることで、「あの人が頑張っているから私も頑張ろう」と周囲の人によい影響も与えられます。最後に、本当にありがとう。世界は狭いので、またどこかで会えると思うので、その時はどうぞよろしく。


伊達先生制作のミニチュア聖書の、お茶目なページ

伊達先生は、福岡県北九州市の姉妹校・明治学園で、4月から中学3年生に「現代社会」を教えておられるとのこと。お元気でご活躍を、そしていつか故郷の福島に戻ってきてください。

囲碁・詩吟でも総文祭に

放送部もNHK全国コンテストに

運動部の躍進も目覚ましいが、文化系の部活動でも全国を舞台に活躍する生徒がいる。高校総体の文化部版とも言われる全国高等学校総合文化祭の囲碁部門に、2年連続出場を決めた、半田桃菜さん（2年5組）だ。

昨年初出場した滋賀県での総文祭では、48名が出場した女子個人戦で、3勝3敗の成績を残し22位に入った。さらに今年3月に大阪で行われた全国高校囲碁選抜大会では、女子8路盤戦で4位入賞と、着実に力をつけてきた。8月初旬に広島で開催される今年の第40回総文祭では、さらなる上位入賞が期待される。

さらに、3年前にも出場した総文祭の詩吟部門に、今年は糠澤美羽さん（1年4組）が出場する。なお来年の総文祭は、お隣の宮城県での開催。より多くの部門での出場を期待したい。

半田桃菜さん

また放送部も、多くの部門でNHK杯全国高校放送コンテストへの出場を決めた。アナウンス部門の松原未有さん（3年4組）、創作ラジオドラマ部門の「お祓い系女子」、創作テレビドラマ部門の「#その顔訳ありにつき」（この作品は県大会で最優秀賞）、研究発表部門の「3カメ・インタビュー法」。7月下旬、代々木オリンピックセンターと渋谷のNHKホールで開催される。

修学旅行先変更に

熊本地震の影響

4月14日に発生し、その後も余震が相次いで大きな被害をもたらした熊本地震は、本校の修学旅行の行先にも影響を与えた。例年通り長崎を中心に西九州を巡る予定だった2年生の修学旅行は、10月24日～28日の日程はそのままに、広島を含む関西方面へと行先が変更される。当初は熊本だけを外して九州に行く案も検討されたが、万が一のことを考慮し、とりあえず今年は九州を避けるという判断に落ち着いた。来年度以降の修学旅行については、まだ白紙の状態だ。

本校の修学旅行が九州に固定されたのは、2005（平成17）年から。それまでは関西方面に行っていた時期があり、今回は以前の行程の経験を生かし、臨機応変に変更ができたという。まず新幹線で福島を出発、東北新幹線・東海道新幹線・山陽新幹線を乗り継いでいったん広島まで行き、宮島を見学し広島泊。2日目には、5月末にあのオバマ大統領が歴史的訪問を果たした平和公園や原爆資料館を見学後、午後に大阪に移動し泊。3日目にはユニバーサルスタジオジャパンで楽しんだ後、午後に奈良公園を経由し、滋賀県守山市の琵琶湖湖畔のホテルへ。4日目にはメインとなる京都市内班別自主研修を実施し、前日と同じホテルに戻る。最終日には比叡山延暦寺を見学後、京都駅から新幹線で福島に帰るという、4泊5日の行程だ。

この機会に、本校の修学旅行の行先が、どのような変遷をとげてきたか調べてみた。現在いる先生方がご存じの、最も古い行き先は、実は京都を中心とした関西方面だった。そこに「平和学習」の一環として広島が加えられ、今年度の変更後のような行程が確立した。

それがいったん九州に変更されたのが1994（平成6）年のことで、カトリック学校ならではの長崎を中心とした行先となった。本校の修学旅行としては初めての飛行機利用で、福岡空港から吉野ケ里遺跡などを訪問し、ハウステンボスに泊、メインの長崎での自主研修の後に熊本を経由して福岡に戻る、というのが基本コース。当初は5泊6日で行っていたが、1泊減らしたスタイルとなってしばらく続けられた。2001年からはいったん広島・関西方面に戻り、2004年にはただ一度だけ北海道を訪れたこともあったが、前述のように2005年から九州に戻されて昨年まで続いた、というわけだ。

今後九州の地震が収まったとしても、熊本城の修復には長い年月がかかると見られ、去年までと全く同じルートに戻すことは難しい。それでも長崎を中心とした九州に行くか、あるいはこれを機会に新しい行先を開拓するか、高校生活最大の行事だけに、今後の学校の判断が注目される。

桜華祭一般公開は9月11日

本校の中学高校合同の文化祭「桜華祭」は、今年は9月10日（土）に内部公開、11日（日）に一般公開が行なわれる。今年のテーマは「彩（いろどり）～イロトリドリの彩能が輝きだす、自分色のキャンバスへ～」。

ご注意願いたいのは、昨年度から一般来場者の駐車場を廃止したこと。お手伝いの桜の会委員の保護者を除く、在校生の保護者や一般来場者は、徒歩や自転車等でご来校いただきたい。

はりこ

▼「富にしばられず、どうすれば幸せになれるかを考えよう」。前ウルグアイ大統領の、ホセ・ムヒカ氏の言葉だ。ムヒカ氏は収入の9割近くを寄付に回し、任期中でも農場の自宅で暮らし続けた、世界一貧しい大統領と言われる▼世界中から尊敬を集めるムヒカ氏とは反対に、日本では「政治とカネ」の問題が毎日のように騒がれている。議会では政治家たちが、本来の仕事そっちのけで政治資金をめぐる指摘や釈明を繰り返す▼彼らを批判する国民やマスコミもいるが、そもそも政治家とは選挙によって国民・住民が選んだ代表である。だが近年の選挙の多くは投票率が低く、特に若い世代の棄権が多い。結果的に投票者の多くを占める高齢者によって政治が左右される「シルバー民主主義」と呼ばれるゆえんである▼しかしその状況が、今年から変わるかもしれない。大学やショッピングセンターなど若者が集まる場所に投票所を置く自治体が増えているのに加え、6月19日から施行された新公職選挙法により、7月10日投票の第24回参議院議員選挙から、選挙権が18歳以上に引き下げられ、私たち高校生の一部も選挙権を得た。これらの取り組みによって、若者の投票率が上がれば、選挙結果にも影響を及ぼすかもしれない▼ミャンマーの民主化を求め闘ってきた、アウンサン・スーチーさんの活動などを見れば、平等で民主的な選挙の大切さや、参政権のありがたみがよくわかる。私たちの日本でも、130年前には選挙というものがなかったし、25歳以上のすべての男子に選挙権を与える普通選挙制度は約90年前、そして女性が参政権を得たのはつい70年前だ。私たち高校生を含め、選挙権を持つ人は、責任を持ってぜひ投票に行ってほしい▼とはいえ「難しくてわからない」「入れたい候補者や政党がない」さらには「自分の一票で何かが変わるわけではない」といった声が多いのも確かだ。一方で、自分たちに利益をもたらす居心地のいい公約ばかりに有権者がなびけば、またカネの問題をかかえるような政治家を選んでしまいかねない▼ムヒカ氏のような清廉潔白で、国民のために働く政治家を、私たちは見極めたいものだ。国民の政治を見る目が厳しくなれば、「日本のムヒカ」も現れるに違いない。

柳澤先輩の案内で行く 会津大学キャンパス見学記

あの東京大学の取材から始まって7年目を迎えた、本校卒業生の先輩の案内で行く「大学キャンパス見学記」シリーズ。近隣の主な大学ほぼと通り取材してしまったと思いきや、この地元福島県内に、まだ行っていない国公立大学があった。福島県ならば義務教育の上に、24時間無料で利用できる、インターネット喫茶とスポーツジムを融合させたような施設を誇る、コストパフォーマンス最高の大学だった。

時代が求めた最先端大学

福島県内に3校ある国公立大学のうち、国立の福島大学と公立の福島県立医科大学は、その起源は戦前や戦中にさかのぼる歴史を持つが、もう一つの会津大学は平成になってからの開学という新しさを誇る。それまで会津地域には私立の4年制大学がなかったため、福島県が全く新たに、成長が期待されるコンピュータ理工学に特化した4年制大学として、1993年に開設した。県立大学としては、福島県立医科大学以来26校目、2006年の国公立大学の法人化に伴い、公立大学法人に移行した。現在でも大学院を含めた学部学科はコンピュータ理工学部学科のみの一学部一学科という構成。開学時には、理系大学でありながら外国人教員の多さや、語学力の高さも話題となり、時代のニーズにこたえる人材を育てる大学として注目された。現在でも教員の4割は、世界20カ国からの外国人教員で、学内の掲示は必ず日本語の横に英語が付き、留学部学科はコンピュータ理工学部による授業ばかりというわけではないので、安心して受験できるほかと語るのは、現在4年生の柳澤利紀先輩（北信中出身）だ。

「英語だけで行われる外国人の先生の授業もありますが、アシスタントの大学院生もついてくれるので、受けてみるとなんとかなります。それより大変なのはプログラミングの授業で、一般人がパソコンを扱える2級というレベルを取るために、毎週のように課題が出されました。すると、妻に『もう少して生まれるかも』と言われ、頑張り方が変わりました。研究室に配属されてからは、ほぼ毎日学校に行き、夜中の2時3時まで作業していました。」

広大なキャンパス中央の、学生ホール前の半円形階段にて

そのキャンパスは、会津若松の中心街とは距離48号線で隔てられた、緑豊かな田園地帯の会津若松市内にある。1学年240名という学生数に対して広大な敷地を誇り、学生食堂や図書館などは極端に一般棟とスポーツジムの機能を兼ね備えたエンターテイメント空間、しかもそれぞれ、洗濯機以外の生活に必要な設備をそろえるが、ずらりとパソコンが並ぶ「演習室」が何か所もあり、OS（基本ソフト）がソラリスの演習室など24時間利用が可能。ただし学生に人気な「Mac」や「Windows」のOSは採用されていない。

さらに、こちらも何か所もある「ソラリス」仮眠室も付属しており、さすがに大学の施設。ここまで無料で利用可能な環境が整っている。

24時間利用可能な演習室、ただしOSは「ソラリス」

本校特進コース卒業の、柳澤有紀先輩（中央）

入りやすいが出にくい？大学

現在本校卒業生で会津大学に在籍するのは、柳澤先輩ただ一人。公募推薦での合格だったが、試験科目は論文と外国語と数学で、先輩曰くそれほど難しいものではなかったという。また一般入試は、センター試験の理科1科目だけで受験でき、二次は外国語と数学で、センター9割が必要とされるほどの高い難易度。とはいえ、勉強ばかりの大学生活ではつまらない。部活・サークルでは、前述の通り水プールを生かした水泳とトライアスロン部の活動が盛んで、柳澤先輩もいつも大会後の懇親会に参加しており、さまざまな人脈ができた。

しかし大変なのは、何といっても入学後の猛勉強。前述のプログラミングの難しさなどもあり、1学年240名の入学者が、卒業時には8割7割になるといわれる、厳しい大学。3年次までに100単位を取得していないと4年次に進級できず、ここが大学最大の関門とのこと。ただ、柳澤先輩はこの春無事4年生に進級、現在は就職活動のかたわら、残る単位の取得と卒論の準備に余念がない優良学生だ。

さらに今年度入学の学生からは「4学期制」が導入され、5月末と8月初めと12月と2月初めの、年4回の学期末試験が行われることとなった。私たちが訪れた6月29日も、土曜日ながら、次の日の試験に備えて、多くの学生が自習室に集まっていた。

さらに体育館に付属する25m温水プールも、一般市民の利用が可能。雪の多い会津に貴重な環境を提供している。

「ただし周囲にコンビニはなく、土日は学食が休み、生協の売店も夜には閉鎖されるので、食料だけは確保しなければならない。」

学生教員が自由に使えるトレーニングルーム、もちろん無料

私の学生時代

伊藤俊之先生の巻

今年は私が大学と入学院を出てから、10年目となります。この記事を書くにあたり、学生時代はどんなことをしていたかなと資料や当時のアルバムを眺めていました。

私は受験生の時に、将来「ものづくり」をする仕事に就きたいと考えていたため、理工系大学へ進学を希望していました。そこで私は、新潟の実家から遠く離れた、理工系の学部学科の充実した首都圏の有名大学に進学しました。当時、会津大学はまだまだ新設の大学でした。

私が最も力を入れたのは、研究室選びです。取り組んでいた内容は、コンピュータの心臓部である計算処理を行なう部分の基礎研究でした。私の所属していた研究室は、NTTの研究所と最も関係の深い研究室でした。

研究室では、将来の進路を決めるために必要な論文の数を稼ぐことが大きく変える画期的なもの」と感じていたこともあって、その先輩方にあこがれて臨んだ大学院入試でした。

入学後は、研究室に通い詰めの毎日でした。研究室では、研究室の先輩方から、机の下で寝袋を敷いて寝泊まりする生活を送っていました。

会津大学の学部の卒業式で（左端）

また研究室では、研究の合間にも、夜中まで実験や討論をした仲間は、今でも私の大切な財産です。

このころ抱いていた夢は、研究者の道に進むことで、そのためには博士号を取ることが必須でした。そこで学部を卒業した後も、さらに同じ会津大学の大学院に進んで、修士課程2年、博士課程3年と合わせて5年間、博士号を取得することができました。計9年間、会津大学にお世話になりました。

しかし実は、博士号取得の目標は、高校の教員になることでした。

私が高校教員を目指したのは、ほんの些細なきっかけでした。

★新校長先生のインタビューでは、たくさんのお話を聞くことができました。

★会津からの帰りの車内、部員一同「旨の保養」と称し爆睡。先生が大量のガムをくださいました。

★初めての旅行で行った会津大学。キャンパスはとても広く、大学内の売店では会津大学グッズも売っていて驚きました。

★会津からの帰りの車内、部員一同「旨の保養」と称し爆睡。先生が大量のガムをくださいました。

★退職の2年前はあまり飲めなかったお酒を、会話が弾むようにと勉強されて東京取材ツアー旅行気分で、良い思い出となりました。

（藤本颯）

★新校長先生のインタビューでは、たくさんのお話を聞くことができました。

★18歳選挙権、この新聞を読んで選挙に行こう、君の一票が日本を変える、人任せにしないで。以上。

（オダギリジョー）

★楽しい取材、愉快な仲間たちとの思い出、ありがとう。あと佳せた新聞部。

（あだちのジョー）

赤ちゃん紹介

～鹿目大樹先生の巻～

私が桜の聖母で教えるようになって、非常勤時代も含め今年で4年目になります。この間に私の人生において大きな出来事はなく、おおむね平穏な日々を過ごしてきましたが、30代半ばの転職も大きかったですが、その中でも一番の出来事は、子どもが生まれたことです。9月で3歳になる長男と、今年1月に生まれた次男です。2人とも学校で授業がある日に生まれました。

長男が生まれた日は、午前中だけ授業がある日で、お昼すぎには生まれるとお医者さんから言われていました。4校の高校2年の授業の際に「実は数時間後に子どもが生まれるんだ」と話すと、生徒からは「おー」という声と拍手の後、なんでこんなところにいるんですか？」「早く奥さんのところへ行ってください！」授業は自習にしましょう！（笑）」などという声が上がりましたが、今となっては大きな思い出です。

次男は、予定日よりも2週間早く、2月の寒い日に生まれました。この日は、午前中に授業があり、その後に出張の予定があったのですが、それが前日の夜に急遽キャンセルになったため、立ち会うことができました。

長男の時は、病院へ向かう車の中で陣痛が始まり、病院に着いてからも、ずっと腰をさすっていたことを覚えています。

親バカと思われるかもしれませんが、生まれて一番最初の息子の泣き声は、今までに聞いたどんな音楽よりも美しい音楽に聞こえました。産声を聞いての感動と同時に、今日からついに父親になるのか、本当に自分が父親になっていいのかという不安があふれ出てきました。しかし初めて実際に男児を抱いたこと、触れ合った時にその不安は消え、溺愛になっていて何もかもダメだ、この子を守っていかなければという気持ちと変化していきました。

次男は、夕方に生まれる予定でした。その日は午後から授業が入っていたので、授業がすべて終わってから病院へ向かいました。6校時に授業がなかったので、ちょっとだけ学校を抜け出し病院に行く予定でした。すると、妻に「もう少して生まれるかも」と言われ、頑張り方が変わりました。研究室に配属されてからは、ほぼ毎日学校に行き、夜中の2時3時まで作業していました。

そのキャンパスは、会津若松の中心街とは距離48号線で隔てられた、緑豊かな田園地帯の会津若松市内にある。1学年240名という学生数に対して広大な敷地を誇り、学生食堂や図書館などは極端に一般棟とスポーツジムの機能を兼ね備えたエンターテイメント空間、しかもそれぞれ、洗濯機以外の生活に必要な設備をそろえるが、ずらりとパソコンが並ぶ「演習室」が何か所もあり、OS（基本ソフト）がソラリスの演習室など24時間利用が可能。ただし学生に人気なMacや「Windows」のOSは採用されていない。

さらに、こちらも何か所もある「ソラリス」仮眠室も付属しており、さすがに大学の施設。ここまで無料で利用可能な環境が整っている。

24時間利用可能な演習室、ただしOSは「ソラリス」

本校特進コース卒業の、柳澤有紀先輩（中央）

18歳、選挙へ

7月10日 参院選投票

6月19日に施行された、改正公職選挙法により、約70年ぶりに選挙権を得る年齢が引き下げられ、私たち高校生の一部を含む18歳以上の男女が新たに選挙権を得た。そこで新聞部では、本校の3年生全員にアンケートを行い、選挙や政治に対する意識をそれぞれ、聞いてみた。もちろんこのような調査は、高校の学校新聞の歴史では初めてのことだ。なお有効回答数は130名、ただして女子である。

Q1：今回18歳以上に選挙権が与えられたことを、どう思いますか？
よかった（48名・37％）
よくなかった（10名・8％）
わからない（72名・55％）

Q2：あなたは7月11日までに誕生日を迎えて、7月10日の参議院議員選挙の選挙権を得ますか？
はい（50名・38％）
いいえ（80名・62％）

Q3：選挙権を得る人は、7月10日の参議院議員選挙に行くと予定（期日前投票も含む）ですか？
必ず行く（16名・32％）
多分行く（29名・58％）
多分行かない（5名・10％）
絶対行かない（0名・0％）
答えた人の理由は？（複数回答可）
面倒だから（3）
関心がないから（1）
まだ知識がそろえてよくわからないから（9）

Q4：どの政党や候補者に投票するか決めていますか？
ある（6名・5％）
ない（40名・31％）
わからない（84名・64％）

Q5：あなたは投票するに際して、何を基準に判断しますか？（複数回答可）
政党や候補者の政策（106）
候補者の人柄（63）
候補者の性別や外見や年齢（1）

Q6：あなたは投票するに際して、何を基準に判断しますか？（複数回答可）
候補者の知名度（10）
家族や周りの人の動め（22）
あなたは候補者の名前や政党について、何から情報を集めますか？（複数回答可）
テレビ（98）
ラジオ（6）
ポスター（43）
宣伝カー（30）
街頭演説（14）
インターネット（48）
チラシやパンフレット（14）
家族や友だちの口コミ（20）
他の予定があるから（2）
政党があるか？（3）

Q7：あなたは候補者の名前や政党について、何から情報を集めますか？（複数回答可）
テレビ（98）
ラジオ（6）
ポスター（43）
宣伝カー（30）
街頭演説（14）
インターネット（48）
チラシやパンフレット（14）
家族や友だちの口コミ（20）

まずQ2から、高校2年生のほぼ3人に1人以上が、今回の参議院議員選挙の選挙権を得たことがわかる。

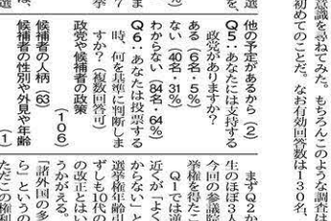
Q1では逆に3人に2人近くが「よくなかった」わからない」と答え、今回の選挙権年齢引き下げが、必ずしも10代の要望を受けてのものだとはいえないことが分かる。政府の理由が「諸外国の多くが18歳からだ」というのを聞いた10代の人たちの中に疑問を感じている人が多いことも、今回の結果から読み取れる。

Q3で「必ず行く」「多分行く」を合わせると9割と圧倒的多数だった。これが現実となり、そしてずっと続いてほしい。ただ、行かない人たちの本当の理由で「まだ知識がなくてよくわからないから」が多いのが気になる。なお「他の予定がある」「面倒だから」という人は、期日前投票の制度を知らないのだろう。既に6月23日公示、投票は可能だ。「面倒だから」「関心がないから」は、論外だ。

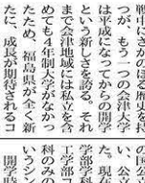
私たち高校生は、ほとんどが家族と同居している。既に選挙権を持っている年上の家族がいるということは、投票当日は家族そろって投票所に行くことも可能であり、おおいに相乗効果が選挙権年齢引き下げが、必ずしも10代の要望を受けてのものだとはいえないことが分かる。政府の理由が「諸外国の多くが18歳からだ」というのを聞いた10代の人たちの中に疑問を感じている人が多いことも、今回の結果から読み取れる。

Q3で「必ず行く」「多分行く」を合わせると9割と圧倒的多数だった。これが現実となり、そしてずっと続いてほしい。ただ、行かない人たちの本当の理由で「まだ知識がなくてよくわからないから」が多いのが気になる。なお「他の予定がある」「面倒だから」という人は、期日前投票の制度を知らないのだろう。既に6月23日公示、投票は可能だ。「面倒だから」「関心がないから」は、論外だ。

学生教員が自由に使えるトレーニングルーム、もちろん無料



旅は心を豊かにしてくれます
今度のお休みは旅に出てみませんか！
好評受付中
JTB東北法人営業 福島支店
〒960－8035
福島市本町5－26（本町本田ビル1F）
TEL 024－523－3314
FAX 024-522-2980
営業時間：月～金曜日／9:30～17:30
（土・日・祝日休業）
http://www.jtb.co.jp/shop/hojin-fukushima/



大学受験対策フェア実施中!
センター試験対策はできていますか？
大学過去問・各社センター対策・願書など気軽にご相談下さい!
FB 文化情報発信館 西澤書店
大町店　福島市大町7－20　Tel.024－522－0161　Fax.024－522－4139
北　店　福島市南矢野目字中江12－5　Tel.024－557－5101　Fax.024－557－5107

コックさんのからあげ屋
野田町店
当店
からあげ・各種弁当・お惣菜
TEL/FAX 024(533)0330

福島県二本松市本町一丁目
二本松藩御用達
御菓子師
(株)玉嶋屋
TEL.0243-23-2121

大切な写真は
●広々とした空間を持つ
ーファミリースタジオー
●緑に包まれた
ーガーデンスタジオー
●絵画が楽しめる
ーサロンスタジオー
わが家のメモリーアート
ワタナベスタジオ
〒969-1612 福島県伊達郡桑折町字西大隅3-13
TEL.0245-82-3152 FAX0245-82-3622

編集後記